

惠藤千代子



えとう ちよこ

# 流出 流入対策は

～住みたいまちに～

**質** 地域活性化策として、人口流出防止、流入対策の今後の取り組みは。

**答** 市長

子育て支援体制の構築、教育環境の充実、企業誘致、広域幹線道路・生活道路の整備促進などに取り組み、若者の定住化を図ります。さらに、団塊世代の受入れに向けた取り組みや、U・J・Iターンなどの就農希

望者に対して農地の斡旋など、市内で安心して農業を営んでもらうための体制を整備し、「豊後大野市に住みたい、住んでよかった」と感じていただける魅力あるまちをつくり、定住化を図っていきます。



3.6 町歩を有する菊の栽培ハウス（清川町「お花やさん。」）芽摘みをしています

徴収率低下

## 新規未納者の発生を防止

～さらに徴収強化を図る～

**質**

未納に対する改善策は。

**答** 総務部長

現在、納期内納付意識の徹底と未収金を累積させないよう、厳格に対処する取り組みを進めています。

**答** 保健福祉部長

保育料は、滞納が増え徴収率が他市に比べて低いので、公立保育園については、滞納者一覧を作成し、夜間に電話による督促も行っていきます。

私立については、実務者研究会で、徴収方法などについて協議しています。



出荷直近の白菊

## 「命をつなぐ」施策に期待!



千歳町新殿 木村 滋一郎  
木村 滋一郎

私は、平成16年に埼玉県戸田市から旧千歳村へ家族で移り住んできました。

現在は、豊後大野名産の夏秋ピーマンのハウス栽培や、ブロッコリー・黒大豆・ゴマ・水稲などの生産を中心とした農業経営を主体に生活しています。

全くの新天地での生活に、当初は不安もありましたが、地域の方々のおかげで、今ではここでの生活を満喫しています。

小学5年生の長男をはじめ3人の子どもがおりますが、それぞれが千歳での生活を楽しんでいます。

私は、この土地での日常生活の中で使われる「命をつなぐ」という言葉をとても気に入っています。

この言葉には、自分だけの命ではなく、次の世代の命までも守っていくこととする先人の心遣いを強く感じるからです。

歴史を振り返れば、今の日本ほど物質的に恵まれた時代は他にないと思います。

過度の快適さを追求することなく、適度な豊かさを享受しつつ「命をつなぐ」ことを最優先にした施策を期待しています。

## 昔語りとなった「ゆりかごから墓場まで」



朝地町市万田 子  
朝地町市万田 子  
朝地町市万田 子  
朝地町市万田 子

『女学生でありし日の名を、ちゃんづけで呼びて八十路の女唄辞のながし』  
昨夜できたばかりの短歌です。

高齢化は今や多くの課題をかかえた今日、明日の問題となつていきます。

同級会に出席すれば誰かれとなく、「ぼっくり」ゆきたいと異口同音に申しますと言うことは、もし倒れ長患いをすれば、どうなるか先行きの不安が大きいです。

安心して死を迎えにくい時代が今の社会です。

「ゆりかごから墓場

まで」と言われた時代は昔語りとなりました。若者が安心して働ける社会、老人が老後不安なく暮らせる社会、今はそんなことを言えば反対に叱られかねない、今日この頃の世相となりました。

国が栄えるということは、若者や老人が大切にされることから始まるものです。

人類が二足歩行が出来るようになってから後、又、老後四本足に戻り這って移動するようになると、それはもう終わりなのです。

「終わりよければ…」と言いたいです。地方には地方に出来る行政がある筈です。

傍聴にどうぞ!

◇ 3月定例会は2月25日に開会予定です。

詳しくは議会事務局 (TEL 22-1001)へ